

第28回増田手古奈記念大鰐温泉俳句大会（紙上）

期日 令和3年5月22日

投句者 二二二名 投句数 四四三句

（成績）①中谷恭子（青森市）②相馬禮子（むつ市）③下河原勝（八戸市）④石田かつら（つがる市）⑤浅井桐花（東北町）⑥佐々木朴花（弘前市）⑦葛西栄子（弘前市）⑧木村あさ子（弘前市）⑨清水山査子（弘前市）⑩稲部天津子（黒石市）

手古奈賞

増田善昭選

天位 つつじ咲く手古奈生家の川明り

木村あさ子

地位 低からず高からずあり山躑躅

小泉静子

人位 火の如く雪の如くに躑躅咲く

成田唯央

兼題A「つつじ一切」

吉田紅一選

天位 つつじ山目指し大漁の船帰る

高橋千夜湖

地位 山つつじ真澄の道に色そへて

秋谷美智子

人位 つつじ燃ゆ知覧特攻散華の地

浅井桐花

秀逸 菩提寺へ誘うつつじ香る道

花田勝美

山躑躅嫁したる妹の代となり

古里津勢

南部牛ねまる高原つつじ燃ゆ

笹原郁子

湯の町の祖父の句碑訪ふつつじ燃ゆ

稲場暁子

山つつじ納骨終へし母の村

相馬禮子

天位 句碑の邊にあふる、日ざし花つつじ

木村秋湖選

地位 白つつじ小高き丘は古墳かも

稲部天津子

人位 躑躅燃ゆかの句碑のもとまた会はお

工藤邦子

秀逸 生徒らのつつじが繋ぐ絆かな

長島喜美

もてなしの古刹の庭の躑躅かな

高野万津江

つつじもゆ手古奈師弟の句碑確と

藤田正子

湯の町の思ひ出多きつつじかな

草野力丸

湯の町の小唄流るるつつじ山

七戸富美子

油川信子

小野寿子選

葛西栄子

明才地禮子

岩村多加雄

木村あさ子

小田桐素人

南美智子

佐々木朴花

対馬迪女選

後藤朋子

木田多聞天

阿保子星

高野万津江

稲部天津子

大川恵子

須藤育子

相馬禮子

長内幸子選

浅井桐花

下山みのる

中谷恭子

木村あさ子

南美智子

田中和子

相馬禮子

中村洋子

兼題B「当季雑詠」

天位 亀連れていきもの係進級す

地位 同姓の向かう三軒雪解村

人位 会ふたびに尾をふる犬や花の道

秀逸 湯上りの頬に風花ふたつみつ

煎餅に豆のこだはり春炬燵

一掬の水に若葉の匂ひあり

春寒や片方のみ古る夫婦箸

春霞空に浮くごと沖の船

天位 風光かり煌めく緋鯉寄りて来る

地位 廃校の裏の巢箱に雛の声

人位 記念樹の芽吹きや娘母となり

秀逸 放流の稚魚一目散風光る

菩提寺の猫の留守番桜咲く

畑打ちのつくづく老いし母の影

春霞空に浮くごと沖の船

手術日を告げられし夜の春の雷

天位 亀連れていきもの係進級す

地位 耕人のふと顔あげし若さかな

人位 山襷のへの字への字や山笑ふ

秀逸 習ひごと終へていたたく浅蜷汁

古城址に花を促す雨静か

しゃぼん玉ためらうやうな離れ際

泥上げの終はる側溝花曇

難段に登りたがつて叱られて

吉田千嘉子選

下河原勝

小田切力

中谷恭子

岩村多加雄

鈴木とまと

下山延子

高橋千恵

野呂みちゑ

畑中とほる選

稲葉いよ子

永倉みつ

佃 正子

小杉郁子

宮川暢子

榊せい子

野呂みちゑ

下山みのる

日野口晃選

下河原勝

藤田豊子

諏訪正子

三上裕子

須藤育子

小林五月

田辺佳子

吉田千嘉子

草野力丸選

佐々木朴花

石田かつら

清水山査子

蒲田吟竜

戸川美重子

牧ひろし

小田桐素人

対馬迪女

大瀬響史選

松野千佳子

竹浪克夫

石田かつら

清水山査子

江渡永見子

高橋千恵

佐藤摩季

黒田長子

天位 眼下には青い鰐立つ春霞

地位 マントルの上に町並み春萌やし

人位 東風吹いて街のページが捲られる

秀逸 梳きたての髪立ち上げる春の風

断捨離のやる気むずむず地虫出ず

他国語の混りてくぐる花の門

古里に辿る思ひ出青き踏む

あたたかや町見晴るかす手古奈句碑

天位 手古奈師の往診鞆村の春

地位 橋七つならぶ湯の町初つばめ

人位 マントルの上に町並み春萌やし

秀逸 東風吹いて街のページが捲られる

草青むノルディックポールの一步かな

春寒や片方のみ古る夫婦箸

鞆やあっけらかんと子は育ち

ふらここの少女だんまりとほしけり

大鰐町長賞 中谷 恭子

大鰐町議会議長賞 相馬 禮子

大鰐町教育長賞 下河原 勝

*中谷氏には副賞として青森県俳句懇話会長賞も贈呈される。

兼題は天・地・人各三点、秀逸二点、佳作一点として集計。同点は高点句が多い方を上位、それでも同じ場合は、受付日が早い方を上位とする。